

栃木県益子町と奈良県香芝市は4月から、総務省の統一基準に沿った複式簿記方式の財務システムを導入する。歳入と歳出を把握する従来会計に加え、民間企業のように資産と負債の状況も管理する。同省によると、全国の自治体で初めて。両市町は公共施設の建て替

企業式会計 自治体が導入

奈良・香芝市など、4月から

え支出を計画的に見直し、財政事情を住民に分かりやすく説明したりするの役に立つ。

従来の自治体会計は収支を示す単式簿記方式で、税収と借金はともに歳入に計上している。複

式簿記では企業会計のように資産と負債の状況も分かるようにする。

総務省は自治体の財政

状況を正確に把握するた

めに統一基準を定め、全

国の自治体に2017年

度末までに導入するよう

資産・負債を明示

求めている。益子町と香芝市は全国に先駆け、約2年前倒して導入する。

両市町のシステムは収入や支出を毎日入力すれば、自動的に日次で複式簿記の財務状況を管理できる。資産と負債を随時把握できるため補正予算や翌年度予算の編成などに機動的に反映できる。